がん種　大腸がん

レジメン名　mFOLFOX6+Pmab 療法　　催吐性リスク分類　中等度

番号	薬剤名	投与量	投与方法	投与時間	備考	投与日				
						1	2	3	…	14
1	生食注シリンジ	10mL	静注		フラッシュ用	○				
2	生理食塩液	250m L	点滴静注		ルートキープ用	○				
3	アロキシ点滴静注バッグ	1 袋	点滴静注側管	30分		○				
	デキサート注射液1.65mg	6管								
	ポララミン注5mg	1管								
4	生理食塩液	50mL	点滴静注側管		フラッシュ用	○				
5	パニツムマブ（ベクティビックス）	6mg/kg	点滴静注側管	1時間	全量100mL インラインフィルター使用 ※その他に記載	○				
	生理食塩液	100mL								
6	生理食塩液	100mL	点滴静注側管	1時間	フラッシュと経過観察用	○				
7	アイソボリン	200mg/m^2	点滴静注側管	2時間	オキサリプラチンと同時に	○				
	大塚糖液5%	250m L								
8	オキサリプラチン（エルプラット）	85mg/m^2	点滴静注側管	2時間	アイソボリンと同時に	○				
	大塚糖液5%	250m L								
9	フルオロウラシル（5FU）	400mg/m^2	急速静注	全開		○				
	生理食塩液	50m L								
10	フルオロウラシル（5FU）	2,400mg/m^2	持続静注	46時間	インフューザーポンプ使用	○	○			
	生理食塩液	—								
11	生食注シリンジ	10mL	静注		抗がん剤終了後のロック用			○		
12	デカドロン４mg	2錠分1	内服	朝食後			○	○		

1コース期間（次のコースまでの標準期間）　14日　　総コース数　制限なし

休薬規定及び減量規定、中止基準	各薬剤の添付文書、適正使用ガイド参照
その他	・治療前にRAS遺伝子検査 ・定期的なMg測定 ・皮膚症状発現予防にミノマイシン100mg 1日2回（適宜減量）、ヘパリン類似物質ローション ※1回投与量として1000mgを超える場合は、生理食塩液で希釈し約150mL とし、90分以上かけて点滴静注すること。 ※重度(Grade3以上)のinfusion reactionが発現した場合は、本剤の投与を直ちに中止し、再投与しないこと。軽度～中等度(Grade1-2)のinfusion reactionが発現した場合は、投与速度を減速し、その後の全ての投与においても減速した投与速度で投与すること。